



昨年の広報を読んでくださった方は私がバレンタインデーを大切に思っていることをご存知でしょう。その祝い方がカナダと違うことには驚きましたが、その違いにも慣れた頃、今度は義理チョコという名の記事に出くわしました。そこには義理チョコを買う日本の女性の心境が書いてありました。義理チョコ？私はわが目を疑いました。この世に神聖なものなどないのか？バレンタインデーほど特別な日がどうやったら義理などというものになってしまうのか。バレンタインデーというのは愛する人に気持ちを打ち明ける日であるはずで、よもや義理チョコを買うことなんかではない筈。

確かに西洋でもこの日が大々的に商業化されていることは認めます。でも、それにしてもチョコをあげるのが義務だなんて腹が立ちます。チョコをあげるのが楽しいという人がいるのも知っています。でもね、世の女性の方々、もし愛してもいない人にチョコを買わなきゃとやきもきするならばそれは義理チョコですよ。バレンタインデーの精神に反しています。せっかくこの外国の祭日を祝うのであれば、もっとわくわくするもの、そして愛する人のことではなくてはいけません！商業主義に負けるな、です。それともう一つ。義理チョコをあげるなら、きちんとホワイトデーにお返しを貰っていますか？都合良く忘れる男性を知っていますよ。がっちりお返しを貰いましょう！

Giri Choco!



義理チョコ！

With last year's article you are probably aware that I am very fond of Valentines Day. It surprised me that it's not celebrated the way it is back home. Just when I was getting used to the differences, I came across an article titled Giri Choco. It was about how Japanese women felt towards having to buy chocolate for men on Valentines Day. I couldn't believe what I was reading. GIRI CHOCO!! "Is nothing sacred?!" I wondered to myself. How did a day so special as Valentines Day get turned into an obligation?? We're supposed to be expressing our feelings to loved ones, not buying Giri Choco. I do concede that Valentines Day is commercialized in a big way in the West, but for some reason it just gets to me that chocolate giving could be thought of as an obligation! Ok ladies. I realize that some of you may enjoy giving chocolates and that's fine with me. However, if you're dreading having to buy chocolates for men you are not in love with, this is Giri Choco and does not match with the spirit of Valentines Day! If you're going to celebrate this foreign holiday, try to make it exciting and about the one you love! Don't give into commercialization! Oh, here's one last thing to ponder. If you have to give Giri Choco on Valentines Day, is the obligation being returned fairly on White Day?? As I know of some men who conveniently forget! Make sure you get your chocolate too!

英語の本が読めたらいいな、と思ったことはありませんか。英語が読めたらインターネットで自分の欲しい情報を拾うことも簡単です。小説などを原文で読む面白さ、これは一生もの。コツがわかれば加速度的に読めるようになります。英語で読む、という教科書を文法解析して辞書を引いて読むというイメージがありますね。辞書を引けば引くほど意味がわからなくなる。そんな授業のせいで英語が大嫌いになった、という人によく出会います。この方法を精読と言います。精読用の文章は効率よく英語を習得するために、びっしりと難しい単語や文法事項が詰め込んであります。英語習得には必要とはいえ、これはいわば筋トレ

英語学習指導員 宮地晶子の

エイゴのマナビカタ

第22回

多読・精読

です。こればかりでは辛すぎます。それとは別にウォーキングのように楽でだんだん体力がつく、そんな読み方があります。これを多読と言います。これだと最終的にはウォーキングどころかマラソンに匹敵するリーディング体力が付きまします。では、そんなに素晴らしい多読のことをどうして学校で教えてくれないの？と思う人もいるかもしれませんが。私自身も多読を教わった記憶がありません。実際英文科を卒業しても英語の本を一冊も読みきったことがない、と言う人が多いのが日本の現状です。これをなんとかしたい、と強く思います。英語の本に挑戦し一念発起したけど続かなかつたその挫折感、私もよくわかります。私も経験者です。でも正しい方法でやれば、「わかる」というブレイクスルーが味わえます。英語で読める楽しさを知ってほしい。楽しいだけではなくこれからは英語で読む必要性がどんどん高まってきました。やり方さえわかればあとはなんとかなるはずですよ。まずは一緒にその入り口をのぞいてみましょう。詳しい話は次回に。